

2022年度 第25回 関西まちづくり賞 表彰式を開催

日本都市計画学会関西支部では、1998年度から「関西まちづくり賞」を設け、まちづくり、都市計画の進歩・発展に著しい貢献をした優れた成果又は実績を表彰しています。2022年度は、2つのプロジェクトをまちづくり賞に1つのプロジェクトを奨励賞に表彰しました。

表彰式は、2023年4月8日（土）、関西支部総会にひき続いて開催し、表彰状及び盾の授与の後、受賞者によるプレゼンテーションとパネルディスカッションを行いました。



受賞者の皆さんと支部長、関西まちづくり賞委員会委員

<第25回 関西まちづくり賞 表彰プロジェクトの紹介>

◎関西まちづくり賞

① 『「上質なにぎわいと風格あるビジネスエリア」を育む御堂筋まちづくりネットワーク 20年間の取組』

受賞者：一般社団法人御堂筋まちづくりネットワーク

エリアマネジメント組織「一般社団法人御堂筋まちづくりネットワーク」の取組である。清掃や植栽の維持管理だけでなく、自主ルールである「壁面後退部分のトータルデザインの方向性」や「地域景観づくり協定（御堂筋本町北地区における広告・サインに係る地域ルール）」の制定、および審査の実施、道路空間での社会実験の実施など、行政と連携した「上質なにぎわいと風格あるビジネスエリア」形成の実働部隊としての役割も担っている。設立以降20年間、御堂筋らしさを追求した活動を地道に積み重ね、活動を続けてきたことが評価され、今後も継続されるとともに一層の活性化、拡充が期待される。



ご受賞おめでとうございます

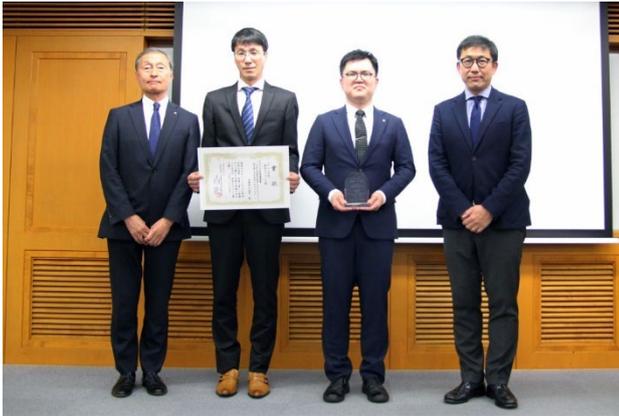


いちょうテラス淀屋橋（パークレット社会実験）

② 『キセラ川西整備事業—「土地区画整理事業におけるPFIと低炭素と市民参加のまちづくり」—』

受賞者：兵庫県川西市

平成に入り、衰退期を迎えた比較工場群を土地区画整理事業により「環境に配慮したまち」へと転換させた息の長い事業である。実現に向けては平成25年3月にエコまち計画を全国に先駆けて策定。計画の実行性を高めるため、建築物の低炭素化や敷地の緑化を誘導する運用基準、設計段階での事前協議、ラベリング評価などの仕組みを構築している。これらの取組の結果、現在は公園を中心に集客施設・交易施設・医療施設・住宅施設などの土地利用の誘導がなされ、低炭素に配慮した新しいまちに生まれ変わっている。区画整理事業に地区の付加価値を生み出す都市の低炭素化という当時では先進的なテーマをいち早く取り入れ、実現化した点は他の地域でも参考となる。



ご受賞おめでとうございます



キセラ川西エコまち建築賞・ラベリング

◎奨励賞

③ 『CMR・E C I方式によるやぶ市民交流広場Y Bファブにおける開かれた計画・設計・施工・運営のプロセスとそのまちづくり貢献』

受賞者：養父市、株式会社佐藤総合計画、阪急コンストラクション・マネジメント株式会社、株式会社鴻池組、横守稔久、木下光、関西大学環境都市工学部建築学科都市設計研究室

やぶ市民交流広場Y Bファブは、J R八鹿駅から市役所・公立病院・県出先機関などが集中する市街地を結ぶ一角に立地した旧グンゼ八鹿工場跡地を活用し建設された音楽ホール、図書館、公民館、公園機能からなる複合公共施設である。整備に際しては、市民ワークショップ等を経て、開館後のまちづくり貢献へ向けた具体的な運営プログラムの検討が進められた。

市街地にまとまった未利用地を生じさせた工場跡地利用について、市民のための施設に機能転換を図るためにCM委員会の役割りを明確にした上で、CMR・E C I方式を活用した本事業は、技術職員の乏しい状況下にある地方小都市における好事例である。



ご受賞おめでとうございます



施設全景